授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">憲法
（　　2　）単位</td><td>担当者氏名</td><td colspan="2">細貝　巌
（弁護士）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>学習形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる。国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）の構成が理解でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法にはどのような規定があるか確認し、様々な解釈に基づいた解説をする。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">憲法と立憲主義・日本憲法史</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">日本国憲法の構成と基本原理</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">基本的人権の保障・包括的基本権と法の下の平等</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">精神的自由権</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">身体的自由権</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">経済的自由権</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">社会権</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">参政権と国務請求権</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">統治機構の基本原理</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">国会と立法権</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">内閣と行政権</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">裁判所と司法権</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">財政</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">地方自治</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">憲法改正</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「憲法」（豊岡短期大学）
「ポケット六法」「コンサイス六法」「デイリー六法」などの「六法」</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">情報リテラシーと処理技術
（　　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>石丸　功
（豊岡短期大学非常勤講師）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="5">情報化社会</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">コンピュータの発展</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">ハードウェア</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">ソフトウェア</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">情報ネットワーク</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">インターネット</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">情報システムの課題</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">Windowsの基本操作</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">文書作成の基本①（書式設定）</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">文書作成の基本②（図形・表）</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">文書作成の基本③（ページ設定）</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">表計算の基本①（書式設定）</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">表計算の基本②（計算式・関数）</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">表計算の基本③（グラフ機能）</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">プレゼンテーションの基本</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題、科目試験、実技試験の結果により判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">「情報リテラシーと処理技術」（豊岡短期大学）
「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社）
「演習でまなぶ情報処理の基礎」鶴田陽和編著（朝倉書店）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	社会福祉論 （　２　）単位		担当者氏名		菅沼　友和
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども学科 １年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	１．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ２．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ３．社会福祉における相談援助について理解する。 ４．社会福祉における利用者の保護に関わるしくみについて理解する。 ５．社会福祉の動向と課題について理解する。				
授業概要	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について、学び深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解していく。				

授業計画表				
	1	現代社会における社会福祉の意義	16	相談援助の対象と過程
	2	社会福祉の理念	17	相談援助の方法と技術
	3	社会福祉の概念	18	利用者の保護に関わる仕組み
	4	社会福祉の歴史的変遷	19	情報提供と第三者評価
	5	子ども家庭支援と社会福祉	20	利用者の権利擁護
	6	社会福祉の制度と実施体系	21	苦情解決
	7	社会福祉の制度	22	社会福祉の動向
	8	社会福祉の法体系	23	少子高齢社会の現状
	9	社会福祉行政と実施機関	24	少子高齢社会の子育て支援
	10	社会福祉施設	25	共生社会の実現
	11	社会福祉の専門職	26	障害者施策
	12	社会保障及び関連制度の概要	27	在宅福祉・地域福祉の推進
	13	社会福祉における相談援助	28	地域福祉の現状と展開
	14	相談援助の理論	29	諸外国の動向
	15	相談援助の意義と機能	30	社会福祉の課題

成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。
使用テキスト等	「社会福祉論」（豊岡短期大学） 「保育所保育指針」（フレーベル館） 「保育・社会福祉小六法」（みらい）

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">教育原理
（　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>湯本　正明
（元小学校校長）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">教育の思想とその作用、わが国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">日本の教育思想</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">子どもの発達と教育</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">子どもの権利</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">世界における教育の歴史的変遷</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">日本における教育の歴史的変遷</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">公教育制度、義務教育制度</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">教育という仕事、教授法</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">教育における教育的課題③学校外との連携</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「教育原理」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	こどものこころと発達 （発達心理学） （　　2　　）単位		担当者氏名		小林　智子 （保育士）
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども学科 １年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	１．保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ２．子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、子どもへの理解を深める。 ３．乳幼児期の子どもの学びの過程や特性についての基礎知識を習得し、保育における人との関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業概要	発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達的知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。				

授業計画表				
	1	発達心理学の定義	16	身体的機能と運動機能の発達
	2	発達心理学で学ぶ内容	17	社会情緒的発達
	3	こどもの発達を理解する	18	言語の発達
	4	こどもの発達と環境	19	自己認識や社会性の拡張
	5	遺伝説、環境説、複合説	20	児童期・青年期の発達
	6	発達理論とこども観・保育観	21	アイデンティティの確立
	7	ピアジェの発生的認識論	22	成人期の発達
	8	認知発達段階	23	現代社会からみる青年期の課題
	9	発達心理学とこども理解	24	壮年期・老年期の発達
	10	エリクソンの発達理論	25	生涯発達心理学
	11	生涯発達の基礎	26	発達心理学と教育学の関連
	12	乳幼児の発達	27	発達心理学の保育への活用
	13	反射と表象の形成	28	乳幼児期の遊びに関わる理論
	14	愛着の形成と発達	29	乳幼児期の学びの過程と特性
	15	児童期の発達	30	乳幼児期の学びを支える保育

成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。
使用テキスト等	「発達心理学」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">こどもの指導法「人間関係」
（　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>小林 智子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
1年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて説明できる。
人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に
応用できる。養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境に
おける関係性について考察することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">領域「人間関係」のねらいや内容、内容の理解を深めるとともに、様々な
かかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説する。
保育者としてどのうようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者と
してこどもとどのような関係性を気付いていくのか、様々な関係について考察する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授
業
計
画
表</td><td>1</td><td colspan="4">領域「人間関係」のねらいと内容およびその取扱い</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">保育者としての役割</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">保育者としての環境づくりと評価</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">保育構想と指導案（模擬保育）</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">対人意識、自己概念の発達</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">自己理解と他者理解を支える保育者の工夫</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">個と集団の育ちの姿</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">こどもの心の拠り所である保育者の工夫</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">人とのかかわりと子どもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">こども同士を結びつける保育者の遊びの役割と保育計画</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">情報機器を活王した保育計画、指導案</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">地域との関わりを導く保育計画、小学校との交流を導く保育計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする
課題：演習に対するワークシートにより評価する
単位認定試験：出題について的確に解答されていることを基準とする</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">こどもの指導法「言葉」
（　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>岩本　久美子（保育士）
（豊岡短期大学非常勤講師）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">乳幼児の言葉の獲得について理解し、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。乳幼児期の言葉の重要性を文字体験活動も加え役割を認識する。こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても総合の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">言葉とは何か　生活と言葉</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">領域「言葉」指導上の留意点と評価</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">０歳～５歳における言葉の発達、６歳の就学に向けた取り組み</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">言葉から文字へ、文字による環境</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の製作、模擬保育体験</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">外国のこどもとの対応</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">言語教材としての絵本の意義</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">絵本とデジタル教材と保育現場の実際および言語教材を用いた指導案の作成</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする
課題：演習に対するワークシートにより評価する
単位認定試験：出題について的確に解答されていることを基準とする</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）
保育内容　実践と研修シリーズ「ことばからの育ち」／村石昭三／フレーベル館</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">こどもの指導法「リズム表現」
（　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>小林 智子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
1年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識を併せて習得する。
表現に関する知識や保育技術の習得と、実践を通した感性や人間力の育成を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう指導援助者としてのあるべき姿を追求していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">領域「表現」についての基本的な考え方</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">領域「表現」の指導において求められる捉え方　小学校教科とのつながり</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作と活用</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">指導案製作の基礎　オリジナル楽器を使った指導案の作成</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">領域「表現」と小学校教科等のつながり</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">表現する力を育てるための保育者の役割と援助</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">絵本のストーリーを入れた模擬保育の実践と振り返り</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする
課題：演習に対するワークシートにより評価する
単位認定試験：出題について的確に解答されていることを基準とする</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）
「１～５歳のかんたんリトミック」神原雅之著（ナツメ社）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">教育方法論
（　　2　　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>磯部　仁
（元小学校校長）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育目標、教育内容、評価との官益性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">教育方法の定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのか考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、機材・教具についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">教育方法の定義・意義と守備範囲</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">教育方法の歴史的展開１（西欧の教育方法）</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">教育方法の歴史的展開２（近・現代の教育方法）</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">教育方法の歴史的展開３（日本の教育方法）</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">教育技術の革新と情報機器の活用</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">教材・教具の理解と活用</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">特色ある授業実践</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">教育現場における授業技術</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">授業分析と授業評価</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">授業展開の構想</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">幼児の理解と幼児教育（保育）の方法</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">近代以降の幼児教育（保育）方法</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">教育方法の課題と展望</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「教育方法論」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	表現とこどもの運動 （　1　）単位		担当者氏名		松本　貴子 （保育士）
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 1年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	子どもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解説明し身に付ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して子ども同士がどう工夫し、表現し、仲間とより良くかかわっていくことができるかを発達段階に沿って展開させることを学ぶ。子どもが楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。				
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びの運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。				

授業計画表	1	運動遊びのねらい
	2	運動遊びの援助
	3	身体・形態・機能・こころの発育発達
	4	こどもと運動
	5	運動遊びの基本的な動き①　基本運動
	6	運動遊びの基本的な動き②　運動表現の要素
	7	身体コントロール能力の向上
	8	刺激に反応する運動
	9	こどもの表現運動Ⅰ①　教育的意義
	10	こどもの表現運動Ⅰ②　身体表現運動とは
	11	こどもの表現運動Ⅱ①　身体表現運動のねらい
	12	こどもの表現運動Ⅱ②　実施上の留意点
	13	年齢別発達における表現遊び
	14	手遊びとリズム表現
	15	表現運動における安全指導

成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現におり判定し評価する 科目試験の結果により判定し評価する
使用テキスト等	「造形表現論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅰ（ピアノ実技） （　　1　　）単位		担当者氏名		鈴木　至門
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 １年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	バイエル62番から102番までを読譜し、演奏できる技術の習得 小学校歌唱曲や子どもの歌の弾き歌いがでできる技術の習得				
授業概要	ピアノを活用した教科内容や保育内容に対応できるように、音階や音符の 知識を学びピアノや鍵盤ハーモニカ等の指導ができるようになるために基礎的な ピアノ穂湧現の技術を身に付ける				

授業計画表	1	オリエンテーション　課題曲の提示と読譜の基本
	2	指使いの基本
	3	初歩的な右手の曲の演奏
	4	左手の運指の基本
	5	初歩的な両手を使った曲の演奏
	6	各自の習得状況に応じた課題曲の選曲
	7	大譜表の読譜と指番号に基づいた指の動き
	8	バイエル62番の練習
	9	ソルフェージュ25番の練習
	10	バイエル100番の練習
	11	バイエル102番の練習
	12	ソルフェージュ54番の練習
	13	ソルフェージュ55番の練習
	14	せんせいとおともだちの弾き歌い練習
	15	課題曲の発表

成績評価基準	実技試験により評価する
使用テキスト等	豊岡短期大学「こどもと音楽表現」 「こどものうた２００」チャイルド本社

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">保育の計画と評価
（　2　　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>小林　智子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
全体的な計画と指導計画の作成についてその意義と方法を理解する。
子どもの理解に基づく計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を
捉え、理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">子どもを育てるうえで、大切なこと（目標）、どのような方法・手だて（方針）、
どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。
幼児教育・保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割を明らかにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授
業
計
画
表</td><td>1</td><td colspan="5">教育・保育における計画と評価の意義</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">カリキュラムの基礎理論</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">計画、実践、記録、省察・評価、改善の過程の循環及び子ども理解による保育の質の向上</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育計画</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">教育課程および全体的な計画等の編成の実際</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">教育・保育の指導計画の作成にあたって</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">指導計画作成上の留意事項</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">長期的な指導計画の編成</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">短期的な指導計画の編成</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">指導計画を立てる時の基本の考えと立案</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">指導計画をもとにした模擬保育の展開</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">教育・保育の記録と省察</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">生活と発達の連続性をふまえた要録</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">教育・保育実践の評価</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">教育・保育の改善</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、
科目試験の結果により判定し総合評価をする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">保育内容総論
（　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>小林　智子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>１５ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育の場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう具体的な事例をもとに実践を通して学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">保育の全体的構造①　育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">保育の全体的構造②　領域の考え方と乳児保育の領域</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">保育内容の歴史的変遷①　変遷にみる特徴</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">保育内容の歴史的変遷②　変遷にみる課題</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">養護と教育の一体的展開　養護的なかかわりと教育的なかかわり</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">乳幼児期にふさわしい生活と保育内容①　園行事の意味と在り方</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">乳幼児期にふさわしい生活と保育内容②　保幼小の円滑な連携</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開①　環境を通して行う保育</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開②　遊びによる総合的な保育</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">全体的な計画の作成と指導計画の作成①　全体的な計画の作成</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">全体的な計画の作成と指導計画の作成②　指導計画の作成手順と配慮</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">保育の評価と保育の記録①　幼児理解に基づく評価</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">保育の評価と保育の記録②　観察記録を書く意味と幼児理解</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">保育内容の現代的課題について①　子育て支援</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">保育内容の現代的課題について②　多文化共生保育</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする
課題：グループワークでの発表内容を基準とする
単位認定試験：授業の内容を踏まえ、本質に根差した論文を書くことができるかどうかを基準とする</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「保育内容総論」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	乳幼児保育Ⅰ （　２　）単位		担当者氏名		岩本　久美子 （保育士）
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども学科 １年	開講期	後期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	１．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ２．保育所、乳児院等様々な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ３．３歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容と運営体制を理解する。 ４．職員間の連携・協働及び保護者や地域関係機関との連携を理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学びその意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				

授業計画表				
	1	乳幼児保育の意義・目的	16	３歳未満児の遊び
	2	乳幼児保育の歴史的変遷	17	３歳未満児の遊びと環境
	3	乳幼児保育の役割と機能	18	３歳以上児保育への移行期
	4	乳幼児保育における養護	19	３歳未満児の発育
	5	乳幼児保育における教育	20	保育士による援助
	6	家庭支援の社会的状況	21	発育・発達をふまえた配慮
	7	家庭支援の課題	22	乳幼児保育における計画
	8	保育所における乳幼児保育	23	乳幼児保育における記録
	9	児童福祉施設における乳幼児保育	24	乳幼児保育における評価
	10	家庭的保育等における乳幼児保育	25	乳幼児保育における連携・協働
	11	３歳未満児	26	職員間の連携・協働
	12	３歳未満児の家庭支援	27	保護者との連携・協働
	13	３歳未満児の子育て支援の場	28	自治体との連携・協働
	14	３歳未満児の生活	29	地域関係機関等との連携・協働
	15	３歳未満児の生活と環境	30	これからの乳幼児保育

成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。
使用テキスト等	「乳幼児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

授業概要（シラバス）

科目名	教職論 （　2　　）単位		担当者氏名		佐藤　忠弘（元中学校校長） （豊岡短期大学非常勤講師）
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども学科 １年	開講期	後期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	教職者に求められる資質能力や教職のあり方などの基本的事項について理解し、時代の変化に対応した教員養成のあり方を理解し、教員に求められる専門性について論じることができる。				
授業概要	教職者の資質、専門性、制度的位置づけ、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助のあり方、教職者間の協同、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などを学ぶ。教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。				

授業計画表	1	教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何か
	2	教職（保育）者に求められる資質・能力
	3	教員（保育者）養成の歴史
	4	教職（保育）者資質と役割
	5	指導計画（保育のねらい・内容）
	6	教職（保育）者の仕事・義務・研修
	7	教職（保育）者の職場環境
	8	教職者の制度的な位置づけ
	9	教職者の任用と服務
	10	教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）
	11	教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携
	12	教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割
	13	職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）
	14	今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）
	15	よい教職者（保育者）になるために（教育実習の心構え）

成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。
使用テキスト等	「教職論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">保育実習Ⅰ
（　　4　　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名
学習形態</td><td>小林　智子
（保育士）
実習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>１８０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">保育実習、施設実習を通し保育所・施設の役割を学び、こどもや入所者と接するなかで、保育者の職務と倫理について理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">保育実習Ⅰ（保育所）９０時間、保育実習Ⅰ（施設）９０時間の実習を行う。
保育所では生活を体験する中で、保育所の機能、保育士の役割、保育の基本について学ぶ。施設では生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や生活の流れを知り、子ども・利用者を理解し援助の仕方、施設保育士の職務について理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">実習園により評価
９０時間以上の実習を行い、実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">豊岡短期大学実習簿</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">保育実習指導Ⅰ
（　　2　　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名
学習形態</td><td>小林　智子
（保育士）
演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
１年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">１．保育実習の意義・目的を理解する。
２．実習の流れと実習上の留意点を理解する。
３．実習課題の設定の仕方・保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ
４．事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">実習の意義を理解し、学校での今までの学びを使いながら、どのようにこどもを支援していくか演習を通して考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立てる。保育指導案の書き方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">実習の意義・目的</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">保育所とは何か</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">保育所を構成する職員と職種間の連携</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">社会人としてのマナー</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">乳幼児の年齢別発達の特徴</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">緊急時の対応　事故を防ぐ留意点</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">観察実習、参加実習、責任実習</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">実習簿の書き方と保育指導案の立て方</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノ等保育技術の利用</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">児童福祉施設の種別及び特徴、多職種及び他機関との連携</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">社会的養護の原理・原則及び支援の留意点</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">プライバシーの保護と守秘義務など保育者の倫理</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">実習の目標や実習課題の設定</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">実習の総括と新たな課題・自己目標</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">授業内での関心・意欲・思考力・判断力・提出物を総合的に評価する</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「保育実習指導」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">こどもの保健
（　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名
学習形態</td><td>渡邉　壽子
（看護師）
講義</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
2年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="5">１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。</td></tr>
<tr><td>授業概要</td><td colspan="5">子どもの成長発達の特徴を理解し、その過程でおこる心身の疾病を理解する。保育者として子どもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践力を高める。事故や感染等の安全管理について、予防対策の取り組みについても学ぶ。さらに、保育における安全管理について理解を深め、関係機関との連携についても学ぶ。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td>子どもの心身の健康と保健の意義</td><td>16</td><td>子どもの生活習慣と病気</td></tr>
<tr><td>2</td><td>こどもの健康と生活</td><td>17</td><td>日常よくみる症状の対応</td></tr>
<tr><td>3</td><td>生命の保持と情緒の安定</td><td>18</td><td>感染症の症状と対応</td></tr>
<tr><td>4</td><td>健康の概念と健康指標</td><td>19</td><td>アレルギーのある子ども</td></tr>
<tr><td>5</td><td>現代社会における子どもの健康</td><td>20</td><td>体調不良の子どもの対応</td></tr>
<tr><td>6</td><td>地域における保健活動</td><td>21</td><td>健康状態の観察</td></tr>
<tr><td>7</td><td>児童虐待の理解と防止</td><td>22</td><td>心身の不調等の早期発見</td></tr>
<tr><td>8</td><td>こどもの発達と発育の特徴</td><td>23</td><td>発育・発達の把握と健康診断</td></tr>
<tr><td>9</td><td>障がいのある子どもと家庭支援</td><td>24</td><td>気になる子どもへの対応</td></tr>
<tr><td>10</td><td>生理機能の発達と保健</td><td>25</td><td>保護者との情報共有</td></tr>
<tr><td>11</td><td>予防接種の種類・効果</td><td>26</td><td>疾病の予防と適切な対応</td></tr>
<tr><td>12</td><td>保育環境の衛生管理</td><td>27</td><td>救急処置・救急蘇生法の理解</td></tr>
<tr><td>13</td><td>安全対策と危機管理</td><td>28</td><td>災害時の危機管理</td></tr>
<tr><td>14</td><td>家庭・専門機関・地域との連携</td><td>29</td><td>病児後保育の対応</td></tr>
<tr><td>15</td><td>保育所保育指針等における小児保健</td><td>30</td><td>家族と連携施設との協働</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>成績評価基準</td><td>レポート課題における専門知識の理解、科目試験の結果により評価する。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト等</td><td>「こどもの保健」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">こどもの健康と安全
（　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>渡邉　壽子
（看護師）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うこととする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態にあった配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">領域「健康」の意味</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">保育の意義と児童観</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">子ども理解</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">乳幼児の心身の発達</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">発達過程に応じた保育</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">子どもの心の健康</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">こころの発達とストレスのサイン</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">子どもの健康と虐待</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">基本的生活習慣の獲得</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">食育と健康との関わり</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">子どもの遊びの発達と健康</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">幼児の遊びを引き出す環境づくり</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">安全管理と安全教育</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">健康と自然環境</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">保育内容「健康」のまとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">受講態度、課題（ワークシート、プレゼンテーション）、単位認定試験から評価し60点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">こどもの食と栄養
（　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>桜井　直子
（管理栄養士）（民間企業勤務）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">１．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基本的知識を習得する。
２．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
３．養護と教育の一体性を踏まえ食育の意義・基本的考え方・内容等を理解する。
４．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
５．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">人が人間らしく生きていくために何をどのように食べると良いのか食と栄養の基本を理解し身に付ける。身に付けた知識を、子どもにどのようにわかりやすく伝えるかを考え、実践的に学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">子どもの心身の健康と食生活</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">子どもの食生活の現状と課題</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">食事摂取基準と献立作成・調理の基本</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">乳児期の授乳・離乳の意義と食生活</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">幼児期の心身の発達と食生活</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">学童期の心身の発達と食生活　　生涯発達と食生活</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">保育における食育の意義・目的と基本的考え方</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">食育の内容と計画及び評価</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">食育のための環境</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">地域の関係機関や職員間の連携</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">食生活指導及び食を通した保護者への支援</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">家庭、児童福祉施設における食事と栄養</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">疾病及び体調不良の子どもへの対応</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">食物アレルギーなど特別な配慮を要する子どもの食と栄養</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート課題、科目試験の結果、演習授業の内容を理解して積極的に授業に臨んだか等、受講態度を含めて総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「こどもの食と栄養」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">こども家庭支援論
（　　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>松本　貴子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
2年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">家庭の意義とその機能について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。近年、多様化する子育て家庭のニーズの把握と子育て家庭の支援体制について把握する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保護者支援の在り方を家庭という視点から明らかにしていく。問題を抱える家庭に対する支援等、社会的家庭に関する基本的な知識、家庭支援の専門性等について学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="5">家庭支援の意義と役割</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">家庭の意義と機能</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">家庭支援の機能</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">保育士等が行う家庭支援の原理</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">現代の家庭における人間関係</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">地域社会の変容と家庭支援</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">男女共同参画社会とワークライフバランス</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">子育て家庭の福祉を図るための社会資源</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">子育て支援政策・次世代育成政策の推進</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">子育て支援サービスの概要</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">保育所入所児童の家庭への支援</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">地域の子育て家庭への支援</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">要保護児童及びその家庭に対する支援</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">子育て家庭支援における関係機関との連携</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">子育て支援サービスの課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目試験の結果により判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">「家庭支援論」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">こどもの指導法「環境」
（　　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>三沢　妃佐江（元幼稚園教諭）
（豊岡短期大学特別招聘教員）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることによりより良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味について考える。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">こどもは様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に保育現場における具体的事例をあげて学習していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">環境の定義</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">環境を通して行う保育の意味</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">領域「環境」のねらい・内容</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">領域「環境」の内容の取扱い・指導計画</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">人的環境・物的環境</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">自然環境、社会・文化環境</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">保育における環境の重要性</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">好奇心・探求心・思考力の芽生え</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">保育環境のデザイン　室内環境</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">保育環境のデザイン　室外環境</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">保育者の役割</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">さまざまな環境との出会い　標識・文字</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">さまざまな環境との出会い　数量と図形・ものの性質</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">こどもの遊びの世界　「３間」の意味</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">こどもと環境における現状と課題　小学校との連携</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">受講態度、グループワークの発表内容、単位終了試験から総合的に判断し、60点以上を合格とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">乳幼児保育Ⅱ
（　　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>岩本　久美子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">乳幼児保育の場について家庭及び家庭的保育などの現状と関連性を理解できる。
乳幼児保育の現状と役割、乳幼児の援助について具体的に理解できる。
乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="5">乳幼児保育とは</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">乳幼児保育の歴史、背景と制度</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">現代社会と乳児、乳幼児保育の場</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">乳幼児の発達と保育内容（１）　６か月未満児</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">乳幼児の発達と保育内容（２）　６か月から１歳３か月未満児</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">乳幼児の発達と保育内容（３）　１歳３か月から２歳児</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">乳幼児保育における保護者との関係</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">乳幼児保育の現状</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">乳幼児の生活と遊び、環境づくり</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">乳幼児の理解、援助の実際</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">集団保育における安全と健康</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">乳幼児保育の発達と保育内容</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">保育課程に基づく指導計画</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">乳幼児保育における連携と地域子育て支援</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">乳幼児保育の課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">「乳幼児保育」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">障害児保育
（　　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>松本　貴子
（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">障がいの種類や障害児の特性、障害児に対する保育方法等、障害児を保育する際に必要な基本的知識を身に付け、実践できる力をつける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">近年、保育における障害児へのニーズが高まっている。そこで本講義では障がいの種類や障害児の特性、障害児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を教授する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">障がい児保育の基本</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と支援</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">知的障がい児の理解と支援</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">発達障がい児（ＡＤＨＤ、ＬＤ）の理解と支援</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">発達障がい児（ＡＳＤ）の理解と支援</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">障がいのある子どもの家族の理解と支援</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">障がいのある子どもの記録及び評価と計画作成</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">障がいのある子どもへのコミュニケーション支援</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">個々の発達を促す生活や遊びの環境</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">子ども同士のかかわりと育ち合い</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">職員間の協働</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">地域の専門機関や小学校との連携</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">保健・医療・福祉・教育における現状と課題</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">障がいのある子どもへの支援の場の広がりとつながり</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">「障害児保育」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">保育・教職実践演習
（　　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>池山　康栄（元小学校校長）
（豊岡短期大学特別招聘教員）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。特別支援教育についての学びを幼稚園教育の理解へと発展させる。
学習知と実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意識を醸成する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">　これまでに形成された資質能力を確認し、これからの課題の自覚と克服に努める。
教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="5">教師という職業</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学級経営</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">特別支援教育の基礎</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">特別支援教育と教師・保育者</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">保育における集団の編成</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">幼児教育の将来的展望</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">幼保小連携</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">学級経営における教師の対応</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">学級経営における臨床場面での教師の対応</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">保育場面での対応　課題ある子どもの事例研究</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">集団討論「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">保育計画と模擬保育</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">学習のまとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">「保育・教職実践演習」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅰ（ピアノ実技） （　１　）単位		担当者氏名		鈴木　至門 堀　祐子
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	保育内容に沿ってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における 豊かな人間形成を育成することをテーマとする。 保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識を 修得する。				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の さまざまな要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュも 行う。実技修得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。				

授業計画表				
	1	オリエンテーション	16	課題曲の学習２①　グループレッスン
	2	ピアノ実技、ソルフェージュのガイダンス	17	課題曲の学習２②　個人レッスン
	3	第１教程で学ぶピアノ奏法	18	発表会形式によるプレテスト２①　ピアノ奏法
	4	個々の習得度を考慮した練習曲の選択	19	発表会形式によるプレテスト２②　ソルフェージュ
	5	楽曲構成に注目した学習①　グループレッスン	20	第３教程で学ぶ楽曲　表現の幅を広げる
	6	楽曲構成に注目した学習②　個人レッスン	21	課題曲の学習３①　グループレッスン
	7	課題曲の学習１①　グループレッスン	22	課題曲の学習３②　グループレッスン
	8	課題曲の学習１②　個人レッスン	23	課題曲の技術的な問題点の練習法
	9	発表会形式によるプレテスト１①　ピアノ奏法	24	発表会形式によるプレテスト３①　ピアノ奏法
	10	発表会形式によるプレテスト１①　ソルフェージュ	25	発表会形式によるプレテスト３①　ソルフェージュ
	11	第２教程で学ぶピアノ奏法	26	課題曲の振り返りと技術的な問題点の練習法
	12	指の交差、ポジション移動の習得	27	発表会テスト　ピアノ①
	13	楽曲構成に注目した学習①　グループレッスン	28	発表会テスト　ソルフェージュ
	14	楽曲構成に注目した学習②　個人レッスン	29	発表会テスト　ピアノ②
	15	まとめ　課題曲の技術的な問題点の練習法	30	発表会テスト　ピアノ③

成績評価基準	受講までの自学自習態度、段階ごとの演奏技術習得度、演奏発表により総合的に 評価する。
使用テキスト等	「こどもと音楽表現」（豊岡短期大学） 「こどものうた２００」（チャイルド本社） 「続こどものうた２００」（チャイルド本社）

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅲ（人間関係） （　2　）単位		担当者氏名		小林　智子（保育士）
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	後期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	子ども側に立った理解と保育者として何ができるかを求められる保育士像から 模索し、保育士の専門性について理解する。 生涯発達の観点を持ちながら、人間関係を中心とした子どもの発達を理解する。				
授業概要	グループワークを通し、保育の実践で利用可能な技術と知識・能力を磨き、 子どもの発達を捉えながら、現場での実践を発表を行う。				

授業計画表	1	求められる保育士像～保育士の専門性と人材確保に向けた取り組み～　講義
	2	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	3	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	4	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	5	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	6	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	7	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	8	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	9	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	10	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	11	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	12	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む
	13	実践発表を行う
	14	実践発表を行う
	15	まとめ

成績評価基準	発表60%、取り組む態度・発表への取り組む姿勢　40%
使用テキスト等	なし

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅳ（卒業研究） （　　1　）単位		担当者氏名		佐藤　治子 小林　智子（保育士）
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	後期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	２年間の学内外における学びを基に、各自が関心のあるテーマに取り組み、学習の成果をまとめ、レポートの作成と発表を行う。				
授業概要	各自が関心のあるテーマを基に、課題設定、研究、考察をし、レポートとしてまとめる。また、皆の前で研究の成果をまとめ、レジュメ、ポスター、PowerPoint等のツールを使い発表をする。				
授業計画表	1	オリエンテーション・課題の立て方と研究の進め方			
	2	課題設定のための学習			
	3	課題設定のための学習			
	4	研究計画			
	5	各自研究に取り組む			
	6	各自研究に取り組む			
	7	各自研究に取り組む			
	8	各自研究に取り組む			
	9	各自研究に取り組む			
	10	レポート作成			
	11	レポート作成			
	12	発表準備			
	13	発表準備			
	14	研究発表会			
	15	研究発表会・レポート提出			
成績評価基準	レポート６０％　取り組む態度・発表への取り組む姿勢と成果　40％				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">こどもの理解と相談支援
（　　2　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>湯本　正明
（元小学校校長）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">相談支援とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育者などに助言、指導、カウンセリングを行うことである。このような働きかけを通して、子どもの持つ悩みや問題の解決を援助し、こどもの望ましい生き方・あり方や人格の成長を目指していくことである。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">相談支援の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導（生徒指導）、しつけ、学習適応、進路指導等について学ぶ。
また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="5">授業概要概要と学び方</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">カウンセリングの基本</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">カウンセリングの実際</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">教育相談と心理アセスメント</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">こどもの自己表現と自己理解の発達</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">自己理解の技法</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">教師の行う教育相談とカウンセリングの違い</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">園児への心理的援助及び保護者との教育相談</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">小学校における児童への心理的援助と保護者への教育相談</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">相談の実際（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害）</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">相談の実際（不登校・いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント）</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">相談の実際（事例研究）</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">相談と家庭・学校・地域との連携と教育相談</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">相談の課題と対応</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目試験の結果により判定し評価する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">「こどもの理解と相談支援」（豊岡短期大学）
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「言語表現」 （　　1　）単位		担当者氏名		岩本　久美子（保育士） （豊岡短期大学非常勤講師）
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	こどもたちの生活に組み入れられている文化についてその歴史、内容などを理解し、豊かに育ちゆくこどものために好ましい文化のあり方を理解する。保育現場で使用される言語に関わる文化財を取り上げ、日々の生活の中でこどもの言語習得経験とどのように関係するのかを理解することを目的とする。				
授業概要	理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身に付け、子どもたちが文化によって夢や希望を与えられるだけでなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野にいれ学習を行う。				

授業計画表		
	1	こどもと文化のかかわり
	2	意義、歴史、内容
	3	成長と遊び、玩具
	4	伝統文化１　折り紙の意義
	5	伝統文化２　折り紙の基礎
	6	絵本１　こどもの絵本
	7	絵本２　絵本の種類
	8	絵本３　絵本の選び方
	9	絵本４　読み聞かせの方法と留意点
	10	紙芝居の歴史と特徴
	11	紙芝居の演じ方と留意点
	12	おはなしの意義　選び方、歴史
	13	語り聞かせの方法と留意点
	14	お話　各国の作品、特徴
	15	児童文化財の分析・考察

成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果により判定し評価する。
使用テキスト等	「こどもと言語表現」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">特別支援教育
（　　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>堀　祐子
（元長岡市立総合支援学校校長）
（豊岡短期大学非常勤講師）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>１５ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれ自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">特別な教育的ニーズとは何か</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">特別支援教育課程と学びの場</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">発達障害や軽度知的障害と心と体の育ち</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">多様な子どものニーズの理解</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">多様な子どもの学びと生活</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">教育課程における支援</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">通常学級における担任による支援</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">個別の指導計画及び個別の教育支援計画</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">アセスメントに基づく計画と評価</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">特別支援教育コーディネーターの役割</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">保護者・家庭をとりまく問題</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">保護者・家庭とのつながりの重要性</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">特別な教育的ニーズを考える</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート、科目試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">豊岡短期大学『特別支教育』
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td rowspan="2">科目名</td><td colspan="2">環境論
（　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>三沢　妃佐江
（元幼稚園教諭）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">学習形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>後期</td><td>授業時間数</td><td>１５ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="4">乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える。環境を通して行う保育の意味を知る。保育環境のデザインを実践できる。様々な環境との出会いを理解する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="4">こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。
具体的な環境例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。
また、環境を通して行う保育の意味をしっかり学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける必要がある。そのためにさまざまな環境との出会いに気付き、それについて深く学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="4">環境の定義</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="4">環境を通して行う保育の意味</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="4">領域「環境」の位置づけ</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="4">ねらい、内容、指導計画</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="4">人的環境・物的環境</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4">自然環境、社会・文化環境</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="4">幼児の身近な環境との関わり</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="4">室内・室外</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">文字・標識・数量・図形</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">季節の行事、地域の行事</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="4">地域、施設との関わり</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="4">住んでいる町を知ろう</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="4">保育者としての専門性の向上</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="4">保育マインドの向上</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="4">保育環境をデザインする</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="4">レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="4">豊岡短期大学『環境論』
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅱ（表現） （　２　）単位		担当者氏名		小林　智子（保育士） 松本　貴子（保育士）
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	後期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	・子どもに伝わるような配慮、工夫をしながら表現できるようになる。				
授業概要	・視聴覚教材の演習（絵本・紙芝居・軍手シアター・ペープサート パネルシアター・エプロンシアター）				

授業計画表				
	1	演じる・表現について	16	「パネルシアター」③制作
	2	「絵本」の読み聞かせについて①実践	17	「パネルシアター」④実践
	3	「絵本」の読み聞かせについて②発表	18	「パネルシアター」⑤発表
	4	「紙芝居」の読み聞かせについて①実践	19	「エプロンシアター」①立案
	5	「紙芝居」の読み聞かせについて②発表	20	「エプロンシアター」②制作
	6	「ペープサート」①立案	21	「エプロンシアター」③制作
	7	「ペープサート」②制作	22	「エプロンシアター」④実践
	8	「ペープサート」③発表	23	「エプロンシアター」⑤発表
	9	「軍手シアター」①立案	24	「自己紹介スケッチブック②」①立案
	10	「軍手シアター」②制作	25	「自己紹介スケッチブック②」②制作
	11	「軍手シアター」③制作	26	「自己紹介スケッチブック②」③制作
	12	「軍手シアター」④実践	27	「自己紹介スケッチブック②」④実践
	13	「軍手シアター」⑤発表	28	「自己紹介スケッチブック②」⑤発表
	14	「パネルシアター」①立案	29	年間で制作した作品について発表
	15	「パネルシアター」②制作	30	年間で制作した作品について発表・まとめ

成績評価基準	可愛への取り組み３０％、発表の姿勢など３０％、授業態度等４０％
使用テキスト等	なし

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習Ⅱ （　　2　）単位		担当者氏名		小林　智子 （保育士）
			学習形態		実習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	後期	授業時間数	９０ 時間
授業目標	実習生の姿勢・態度としては、向上心を持って実践的学びを積む 保育内容に沿う教材準備・環境構成ができ、生活・遊びを促す援助をする 実習日誌には保育者の意図を感じ取り学びや気づきや子どもとのかかわりを詳細に記入する 指導案を書く意味が分かり実践を行う。全日実習指導案の立案と実践 手続きを計画的に進め、提出物は期日を守り提出する				
授業概要	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し 保育理念や保育計画を把握し、保育士の職務をより深く理解する。また修得した 知識と技術をきそとして、総合的に実践する応用力を身につける。				
授業計画表	1	実習期間：2019年10月　15日（火）～　２９日（火）　2週間　90時間			
	2	実習の内容：参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い省察する。			
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）及び実習日誌の 評価をして行う。				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">科目名</td><td colspan="2" rowspan="2">保育実習指導Ⅱ
（　　1　）単位</td><td colspan="2">担当者氏名</td><td>宮﨑　寛子（保育士）
小林　智子（保育士）</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習形態</td><td>演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科
開講学年</td><td>こども学科
２年</td><td>開講期</td><td>前期</td><td>授業時間数</td><td>３０ 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業目標</td><td colspan="5">保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨く。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業概要</td><td colspan="5">保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられることをねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で活かせるように準備する。</td></tr>
<tr><td rowspan="15">授業計画表</td><td>1</td><td colspan="5">保育実習Ⅰの振り返り</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">実践的な自己課題の決定</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="5">保育知識のおさらいと実習で身に付けること</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="5">子どもの発達、５領域のねらいと現場での支店</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="5">子どもの基本的生活習慣の獲得</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="5">基本的生活習慣獲得における保育支援</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="5">遊びを展開するための知識</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">遊びを展開するための環境設定</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="5">子どもの心に寄り添う</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="5">環境構成の技術と人間関係構築</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="5">責任実習に向けての保育指導案の立案</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="5">責任実習実施の留意点</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="5">保育記録の視点</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="5">保育者としての倫理</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="5">実習上の諸注意のまとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価基準</td><td colspan="5">レポート課題において学習状況を確認する</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用テキスト等</td><td colspan="5">豊岡短期大学『保育実習指導』
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</td></tr>
</table>

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習 （　4　）単位		担当者氏名		小林　智子 （幼稚園教諭）
			学習形態		実習
学科 開講学年	こども学科 2年	開講期	前期	授業時間数	180 時間
授業目標	実習園の特色や保育方針を理解し、課題を明確にし実習に臨む ピアノ等の保育技術を磨き実習に臨み実践の場二おいてさらなる向上をめざす。 幼児の言動から心情を感じ取りながらかかわることができる 記録は保育者の意図を感じ取り学びや気づきを記録に残す 指導案は子どもの姿を予測し配慮事項、留意点をあげる				
授業概要	今までの実習と経験を基に、観察実習・参加実習及び指導案に基づいた実践を行う。 幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、個と集団の理解、幼稚園教諭の職務に 対する理解がさらに深まるようにする。また、指導案を作成し実践的な体験を 通して学ぶ。				
授業計画表	1	2019年6月　20日間			
	2	実習の内容：参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い省察する。			
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園による評価（実習態度・幼稚園理解・幼児理解など）及び実習日誌の 評価をして行う。				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習事前事後指導 （　1　）単位		担当者氏名		小林　智子 （幼稚園教諭）
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども学科 ２年	開講期	前期	授業時間数	３０ 時間
授業目標	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。				
授業概要	教育実習の意義と目的。実習生としての心構えを学ぶ。また幼児の発達についての特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標をもって実習に臨む態度を育成する。				
授業計画表	1	幼稚園教育の特質			
	2	実習の意義と目的			
	3	保育者としての倫理			
	4	実習生としての心構え			
	5	事前相談・打合せ			
	6	長期指導計画・短期指導計画			
	7	子どもを取り巻く環境			
	8	幼児理解と保育			
	9	保護者理解と支援			
	10	特別な支援を要する子どもへの対応			
	11	手遊び、読み聞かせ			
	12	指導案とは何か			
	13	指導案作成の実際			
	14	幼児理解と学び			
	15	保育者の活動からの学び			
成績評価基準	授業内での関心・意欲・思考力・判断力・提出物を総合的に評価する				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				